



危険な目に あわないぞ!

十三パパの青空防犯教室

企画意図

子どもたちが犯罪被害にあわないためには、危険を避ける力を子どもたち自身が身につける必要があります。本作品では通学路や公園など子どもに身近な場所を舞台に、危険な場所や怪しい人、危険な目にあった時の対応法を具体的に分かりやすく描きます。

対象と
用途

小学校 特別活動

上映時間 18分 [C#0537]

DVD 66,000円(本体価格)

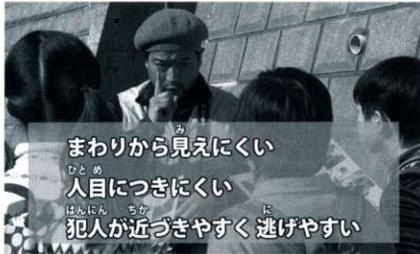


東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

内 容

小学生のナナミ・大輝・匠の3人は、不審者が出たという噂を聞き、怖いもの見たさで高架下のトンネルにやってきます。そこに通りがかったのは、地域の防犯ボランティアをつとめるナナミの父親。危機意識のない3人を不安に思ったナナミパパは、防犯教室を開きます。ナナミパパのアドバイスを受けながら、3人は身を守る知識を学んでいきます。



まわりから見えにくい
ひとめ
人目につきにくい
はんにん
ちか
犯人が近づきやすく逃げやすい

●「危ない場所って どんどころ？」

まず一行がやってきたのは、過去に連れ去り未遂事件が起きた、ひと気のない道。なぜこの場所で事件が起きたのか、危ない場所の特徴を考えます。



●「一人のときが危ない」

犯人は一人にいる子を狙います。大事なものは危ない場所を一人で歩かないこと。暗い道は避け、少しでも人目のある明るいところを通るようにしましょう。



●「知らない車は とっても危険」

見慣れない車は要注意です。車から離れ、急いで通り過ぎましょう。また駐車場も危険な場所です。車のそばにしていると、車中に引きずりこまれることもあります。



●危険な人って どんな人？

ナナミは以前公園で、男に連れて行かれそうになりました。でもその男は真面目でやさしそうな人でした。悪い人かどうかは見た目では分かりません。ではどうやって見分ければ……？



●もしも危険な目にあったら

もしも突然襲われた時はどうすればいいのでしょうか？ 大声を出す、防犯ブザーを鳴らす、全速力で走って逃げる。ナナミパパは3人に迷わず行動することの大切さを伝えます。

監修

板橋区教育委員会 学校防災・安全教育専門員
鎌倉女子大学 講師 矢崎良明

前全国学校安全教育研究会会長。安全教育、不審者対応の防犯教育や地震防災教育の専門家。中央教育審議会(学校安全部会)など多くの文部科学省関係委員を務め、文部科学大臣表彰を受ける。現在も全国各地の講演活動で活躍中。

プロデューサー 光田雅樹／川越英一

監督 吉田和義

脚本 新巻圭太郎

撮影 松丸武彦

制作協力 千葉エデュケーション株式会社

企画・制作 東映株式会社 教育映像部

予告編配信中!

<http://www.toei.co.jp/edu/>

教育映像

検索

2014年作品 S.